

福岡県 飯田 誠

築六年のわが家も度々重なる台風で急速に古くなってきた。そこで私は「この際、肉体的古品化の程度もチェックしてみる必要がある」と考えはじめて病院の門をたたいた。

大腸にポリプあり。切除しなければ癌になるぞと老医者に脅かされた。まさに晴天のへきれきだった。来年は還暦。今後は頑固を返上して健康管理を素直に行いたいと思っている。

福岡県 上茂 雪吉

国土防衛三十五年、その後まだ現役(会社)で頑張っております。体力の維持増進にテニス、氣力の保持、ボケ防止に囲碁、楽しくやっています。

日本各地を点々とした生活も現在福岡、いずれ生まれ鹿兒島が終着点……今年還暦これからは玉拾い人生を考えていますのようです。

福岡県 蒲池 秀夫

改革の嵐が吹き荒れています。景気低迷下での雇用情勢悪化が隊員さんの退職減、自動車販売会社の採用減となりました。中間に位置するわがリクルーターとしての活動がパタッ、と静止画像のごとく止った状態となりました。それでも元氣印の三菱自動車グループを背負い情報求めて鹿兒島へ行ってきましたが大変な荒れかたでした。やっと今週末は晴れました。今日・明日はデニスで白から黒くなりそうです。

福岡県 重富 熊雄

七十五歳を数える。それは定年後、自衛隊勤務の期間よりずっと長い歳月です。それなのに心身ともに健全、まったくありがたく、感謝合掌の日々であります。

九州の山々を歩き、〇五段の善の上達を願い、好きなことを、好きな時に、好きなようにやらせていただいております。いつか信友の糧として、また「誇り」を忘

会の総会にも出席して、旧知の方々と一緒に握手をかわしたいと思っております。

福岡県 作見 勝

勤めの傍ら吹く事(尺八)と走る事(ジョグ)を楽しむながら元氣に過ごしております。吹く方は年に数回、演奏会に参加。琴・三弦との合奏は楽しいものです。走る方は目下、十月のシテイマラソン福岡93(福岡ドーム)参加に向けて汗を流している毎日です。

福岡県 谷崎 今朝一

五十八年二月定年となり、翌五十九年度から地域の公民館長として社会教育活動に当たっております。市主催行事への参加及び地域における各種行事の計画実施等、今後とも地域の皆様とのふれあいを大切に任期満了迄ボランティア活動が続けていきたいと思います。

福岡県 細井 利幸

総選挙が終了、非自民連立内閣が成立した。

福岡県 中西 明

定年退官後、はや一年八月月経過しました。勤め先は飯塚オート場で車券発売所の監督(事故処理係)です。職場は全て女性で約百名、年齢は二十才から六十一才で、幅広い層に囲まれている生活です。

福岡県 森 繁實

今までの男世界からの職場転換でとまどうことも多く、色々な問題を処理しながらここまでできました。これからは自衛隊での経験をした心と糧として、また「誇り」を忘

れずに頑張っていきたいと思えます。

福岡県 波多江 興夫

バーベナという花を御存じですか? バーベナは原産がブラジルで四月より十一月まで赤、白、紫と色とりどりの花が咲き続ける可憐な花です。

福岡県 三宅 登

筑後川今日も悠々……。高良山の麓で元気に暮らしております。週一回の囲碁クラブ通いと水彩画の勉強ぐらいが唯一の楽しみでしうか。

福岡県 今村 秀敏

佐世保重工の家族寮管理人として第二の人生をスタート。その時から今までの道が始まりました。竹刀を持って十九年になります。

福岡県 村岡 浩一郎

定年後四年が過ぎましたが早いもので歳月は待たずの感が有ります。安田火災海上に転職して二年、毎日の営業に頑張っています。会社での評価は数字がすべてであり厳しいものです。

福岡県 保科 年夫

子供三人あれどみな男、妻に先立たれ、病後の老人、好きな旅行も一人では出来ず、嫁に助けられての生活。戦争八年、自衛隊十四年、サラリーマン十五年の変化多き過去を思い出。喜寿と年を重ねる趣味を生かして余生を楽しく過ごすべく努力中。孫でやっとなの子に恵まれました。

隊友会連合会長を辞任しましたが、九州担当理事を拝命し、相変らず自衛隊発展のため微力を尽したいと念願致しております。

大分県 大久保 孝

来年は信友会創立三〇周年だそうである。早いものですね。私も退職後三〇周年が間もなくやって来ます。

大分県 河野 鶴見

本人(七五)みかん専業農家。長男 知教(四五)会社員。長男の嫁 豊子(四二)会社員。孫 しのぶ(四二)会社員。あゆみ 許高三年。八小六年。妻は逝って二年半、今の処健やかです。

大分県 日野 正幸

九州の上高地湯布院、標高約五百米、真夏とは云え、朝夕の涼しさは格別、郷土の恵みを心よく満喫して今年です。私も通信科OBとして四年を経過しました。在任中に得た数々の資格が役立て、それを基礎に色々仕事に生かしておりますが、これも通信(整備)職種であったればこそ……と今では誇りに充ちた日々であります。これからも会員の皆様方と共に誇り充実した日々を過せるよう努力したいものです。

熊本県 阿部 武士

退官して早や二十三年。第二の職場を退いて十一年、その間元氣にすごしていましたが三年前に心臓病(大腸切除)して現在は元氣ですが月一回検診に行っています。平均寿命まであとちょっとになりました。頭と身体を使って心を休めボケ

熊本県 馬場 孝

昨年郷里福岡で突然虚血性心臓病で倒れ幸いにも九死に一生を得ました。健康には人一倍自信をもっているだけに何の前触れもなく襲って来る病魔の恐ろしさを知り、半世紀を体験すると誰しもが危険因子を持ち、隙あれば突如として発病する事実を一人でも多くの方に流布したくペンを取りました。

熊本県 田中 福雄

健康且つ平穩に過ごしております。ただ、七月末から八月上旬にかけての豪雨の連続は、生涯初体験でした。異常気象の本年のことゆえ、台風の来襲を心配しながら、秋野菜作りに取りかかっています。

鹿兒島県 永岩 松美

平成五年八月六日鹿兒島地方を襲った豪雨で自宅は幸い大した被害はなかったが、市内の浄水場が冠水し給水不能となり七日間断水し大変困った。この時自衛隊の給水車が各所で給水を開始して大いに助かった。

熊本県 上杉 公雄

極めて健康、子供二人・孫七人、謡曲(二十五人)・社交ダンス(十人)に狂い、余生を楽しく過ごしています。

熊本県 江崎 勝

定年して四年が経過しました。旧知の人達から、現役のときより若くなったねと言われる昨今です。出版社に勤め、会社の旅行でハワイに行ったり、家庭にあつては掃除や洗濯で妻の仕事の一助に頑張っています。アマチュア無線と散歩が日課。妻との旅行希望。

熊本県 柿内 邦昭

還暦を迎え、光陰矢の如しの実感を感じつつある今日この頃です。それにしても、時折見る夢は、自衛隊在職中のことばかり、約三十年間の生活は、脳の中核に染み付いたものかと、自分の半生を振り返りつつ、明日への道標を模索しています。

米国 月野 久

退官直後からの海外生活もやがて十五年(ブラジルの約三年を含む)近くになって、ソロソロ日本に引き揚げようかと考えていた矢先、現地社長の職を交替し、今度は東京本社に勤務を移すこととなり、この会報が発行される頃には既に日本に帰国しているだろうというタイミングになりました。

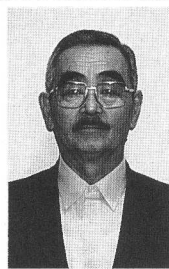
鹿兒島県 西 親晴

現在、入来の公民館主事として週四日勤務しております。田を三反ぐらい耕作し天気のよい土・日曜日は好きなテニスをしながら八月八日の県大会予選のため練習に励んでおります。

雨の日は好きな書を仲間と打ちながら楽しく忙しい毎日を送っております。今後は「健康第一」で頑張ります。

一期一会

副会長 井上秀夫



信友会も創立三十周年を迎え、まことに御慶にたえません。私も現役を終え、人生の後半に入り過ぎし日々を懐かしく憶い起す様な年になりました。一期一会と云いますが、私の人生も

半端ながらの通信屋半生記(完結編)

寫末 稔

一、はじめに
最近、自分史の作成が流行っているが、自分史を一般に公開する事は大変な決心が必要である。露出狂でもない限り、自分の過去の恥部を曝け出したり、臆面もなく、自慢話ととられる事を書き連ねる事に抵抗を感じるのが当たり前である。しかし、反面、この事だけは記録に留め、広く人々に知って貰いたいと云う事も、人々々々あるものである。筆者もかつて少年期の経験で「北鮮脱出記・三十七年前の思い出」として、昭和五十六年九月号の「修親」に投稿した事がある。これは、敗戦直後の北鮮における同胞の悲惨な実態を記録に留めると同時に、不幸にして帰国を果たせなかった人々の三十七回忌にあたり、哀悼の意を表したい一心で書いたものである。ついで昭和五十九年十二月号の「通信電子」に掲載した「半端ながらの通信屋半生記」は、お世話になった通信科職種に対する感謝の気持ちを表したく書いたものである。しかし、さすがにテレクさくて、主人公の人名を三人称として記述

二、部下への心配り
幹部露語課程修了後、OJ Tのため米軍部隊へ派遣された事がある。主たる業務は資料の分類整理であった。半年後の原隊復帰時に、修業間に収集した資料を陸軍へのおみやげとして、下宿先に持ち帰る途中、あつて、バスに乗り込め、肝腎の資料を包んだ風呂敷包みをバス停に置き忘れてしまった。直ぐ気が付き、次のバス停から走って戻ったが、すでに無く、直ちに関係上司に報告すると共に、警察を当たってみたら遺失物として届けられていた。しかし、内容が内容なので、容易に返してくれず、結局、東京から陸軍二部長のY将補が飛来し解決してくれた。正規に秘密文書として登録されていない資料なので、規則上は処罰

と同時に、いつ迄も変わらぬ良き心の支えであって欲しいものだと思います。会の幹事の諸兄も、会員相互や現役の諸君との出会いの場を一つでも多くする様に、いろいろと頭を悩まして努力していただいております。どうか一人でも多くの等々の企画に参加して頂き、東京周辺のみでなく、全国各地でも同じ様にいろんな催しが数多く行われる様になることを希望しております。

孤独淋しく味気ないものはないと思います。それは仙人のみのが耐え得るものでしょう。吾々凡夫には苦しみ以外の何ものでもありません。人は人に出合わなければ生きて行けないものと思います。

四、ベレンコ中尉にふり回された日々
彼が北部方面総監部の通信課長として着任した一カ月の昭和五十九年九月六日、ソ連空軍のベレンコ中尉がMIG-25五機の飛行空港へ不法着陸してきた。当時は未だ自衛隊の防衛マインク回線網等無く、函館との連絡は札幌・函館間に電光公社から借り上げていた二回線の専用線に頼らざるを得なかった。早速、方面通信群により野外多重回線網を構成するよう申ししたが、総監が「静かなる対処」を強調されたため、幕僚長が容易に決定せず、方面通信群の初動が三日間遅れた。この間、経緯を知らない陸軍の通信課長から毎日怒鳴られながら、電光公社の臨時専用線を一本一本借り上げていった。四日目にやっと幕僚長の決裁が降り、方面通信群の野外多重回線網の構成により事無きを得たが、後日、彼は当時の経緯を総監に報告したところ、「何を馬鹿な!何故直ちに方面通信群を使用し、所要の回線を確保しなかったのか?通信群に頼ることも絶好の訓練の機会ではなかったか」と云われ、ガックリしたものである。通信幕僚として、上司を説得できなかった事を深く反省すると共に、総監に直接伺うべきだったと悔やまれた一件であった。

五、通信幕僚は言場には非ず
彼の北部方面総監部通信課長就任一年半後、陸軍及び方面総監部の改編があった。時の陸軍幕僚長、陸軍及び方面組織の改革を決定され、一部の反対を押し切って、通信課長等特別幕僚のポストを廃止した。従来、同僚であった特別幕僚を調整幕僚であった一般幕僚の部下に強引に吸収したわけである。確かに新組織は、縦横がはっきりし、いかに旧来の日本人が好む組織形態であるが、屋上屋を重ねる形となり、責任の所在がボカされ、かつ特定の分野についての指揮官に対する補佐が十分に行われなくなる恐れがあった。特に、世

六、おわりに
彼が官門を去って以来、十一年が経過し、第二の人生も終焉を告げた。目下、第三の人生を果したて如何に送るべきかを考えている最中である。官仕えだけは、もう結構で、後は、軽くと体を使用し、驚愕しないよう、ボクッリ極楽浄土に行けるよう祈るだけである。信友会 万歳/陸上自衛隊通信科 万歳/ (合奏)

通信科部隊等OB会の現況 (平成5年9月30日現在)

機関	部隊等名	OB会の名称	会長名	員数	
				O	現役
方面通信群	通信学校校務	久里浜駐屯地OB会	高向 橋吉	467	
	通信補給通信群	通信給処OB会	長孝忠 洋忠	580	
	北方方面通信群	北方方面通信群協力会	高向 橋吉	250	
	東北方面通信群	東北方面通信群協力会	高向 橋吉	258	
	東部方面通信群	關 通 会	澤功 八川	587	807
師 団	中部方面通信群	中 方 通 信 会	木越田 野下	244	
	西部方面通信群	西部方面通信群協力会	忠重 末昭	450	
	第1通信大隊	第一通信大隊OB会	小田 竹下	1985	
	第2通信大隊	第二通信大隊OB会	大山 藤秋	195	
	第3通信大隊	第三通信大隊OB会	藤秋 堀田	550	
通信大隊	第4通信大隊	第四通信大隊OB会	堀田 高内	287	
	第5通信大隊	第五通信大隊OB会	堀田 高内	67	
	第6通信大隊	第六通信大隊OB会	堀田 高内	56	
	第7通信大隊	第七通信大隊OB会	堀田 高内	42	
	第8通信大隊	第八通信大隊OB会	堀田 高内	295	
通信団	第9通信大隊	第九通信大隊OB会	堀田 高内	51	
	第10通信大隊	第十通信大隊OB会	堀田 高内	800	
	第11通信大隊	第十一通信大隊OB会	堀田 高内	70	
	第12通信大隊	第十二通信大隊OB会	堀田 高内	65	
	第13通信大隊	第十三通信大隊OB会	堀田 高内	222	
通信団	本部・本隊付通信隊	通信団本OB会	堀田 高内	188	1
	中央野外地通信隊	中央野外地通信隊OB会	堀田 高内	142	
	中央野外地通信隊	中央野外地通信隊OB会	堀田 高内	348	
	中央野外地通信隊	中央野外地通信隊OB会	堀田 高内	88	
	中央野外地通信隊	中央野外地通信隊OB会	堀田 高内	496	
通信団	第1通信大隊	第一通信大隊OB会	堀田 高内	400	
	第2通信大隊	第二通信大隊OB会	堀田 高内	400	
	第3通信大隊	第三通信大隊OB会	堀田 高内	400	
	第4通信大隊	第四通信大隊OB会	堀田 高内	400	
	第5通信大隊	第五通信大隊OB会	堀田 高内	400	

(通信団第1科広報班調査による)

築山栄次

柿生うる 柿生の里
名のみかは禅寺丸柿

北原白秋の詩碑にあるもの。いまの王禪寺は草葺きの簡素なお寺で、心休まる雰囲気を漂わせている。禪寺丸とはこの付近を原産とする小粒の丸柿で、その原木と称するものが、境内に残っている。

さ、リタイヤして身体のアチコチが油切れるを起こしていることが老人が、毎日常のことと言ったらどうしても、内務実施ノ身辺整理が主になってしまふ。

戦地でも兵隊さんに時折身辺整理を命じたが、これは戦死を頭に置いてのこと。今は己がこの世に「ハイチャ」する時のことを考えてやっている様に思える。

昨年、の信友会の席上で築山氏と熊本との関係についてご質問を受けたが、会員の誰方かとも関係があるかも知れないので簡単に築山氏の歴史について記してみたい。

築山なる姓のものが、物の記録に現れるのは鎌倉時代後期のこと、院政時代に鳥羽院の北面の武士の一人に築山弥十郎政俊の名がある。(前記の日本家系協会の本に依る)

我家の系圖の初代は、建武二年正月に生まれ、応永二年二月に六十一才で亡くなっているが、細川頼之に仕え、その女（応永十五年九月卒、高秋院寛月照円大姉）を室に迎えている。

一方、四国は伊予の名門に河野家があるが、この家系は、遠く孝靈天皇の王子の伊予王子を始祖として、系図が起こされて居る。この系図をずーっと辿って行くと、何代かの直系の子孫に河野通許（築山通許と改姓し「改姓築山之事河山通許」と改姓し「河野家譜築山野家の譜」…通称「河野家譜築山

本」を著わす）で出て来る。現在この「河野家譜築山本」は、松山市堀之内の伊予資料刊行会から発行されているものがある。

通許のところをこの本によって

見ると、母は、城口水垂之住築山兵庫の女、築山氏は長岡藤孝一註・細川幽斎一の族なり。秀吉公四海を管するに及び、其の威を避け、河野氏の易えたる築山氏に改む。其の家奴は懸魚・云々」とあり、中々剛勇の士であつたらしい。なぜ築山と改姓したかと言うと、伯父通直の時、天正十二年に秀吉ににらまれて所領を没収されていたア

こに出て来た懸魚紋について、少し説明を加えると、懸魚とは建築上の用語で、破風の下飾りを指すもの。初代弥十郎保俊が明徳二年正月の洛中の大火に際し、大いに働いたのを賞され、後小松帝から賜ったもので、当時の蛤御門の懸魚の模様と伝えられて居るが、

十二花弁の菊の周りに六個の雲を配したデザインである。

我が家の歴史を調べることは内務実施の一環であるが、その他のものの整理やメンテナンスなど、結構やることは多い。

昭和初期のころ、川崎のチベツトなる尊称とも蔑称ともつかぬ呼び名を頂戴して、人様よりも狐狸のたぐいが偉そうに横行していたのがこの辺で、家を建てた頃はいつも小経鶏の声が聞かれ、雲雀

ある青年が校

「イヤ、死ぬなんて言わないで。」悲鳴のような叫び声をあげ

ながら、女は乗って来た自転車を手投げ出すように止めると、今はこの人目もはばからず私の腕に飛びこんで来た。日本舞踊で鍛え立、居振舞も、その片鱗さえ見せず、極度のショックで、体は小刻みにふるえ、その鼓動は強く激しく私の胸をうった。「必ず帰って来ると言って御願ひよ、だって私達、まだ何も……」切ったばかりの人握

―つけたし―
河野通許のところに「母は城州
水垂之住」とあるが、ここは現
在の行政区画では、京都市伏見区

淀水垂町で、淀は桂川・宇治川・木津川の三川が合流して淀川となるところ、昔は舟運に頼ることが多かったのだ、交通の要点だった七代保春は大阪攻めの徳川家康の為に各種便宜を提供している。明

の追憶の青春――

永田 雄一郎

初めて結婚を口にした偕楽園で、
馥郁たる香りの梅林の中、木の間に
洩る満月の光に映え、神々しいま
でに淨らかな乙女の白い顔に涙を
うかべ、ぼつりと言った、「私、う
れしい」の一言が改めて思ひ出さ
れた。女は芳紀正に十八、白梅一

であらう。或いは敵中突破の時、横腹部を削り取った銃弾が佛か一センチ内側に寄つていたら、腎臓が砕けてこれでも即死であつたに違いない。私のこのような体験は、数限りない。そして私は何時か、これらの奇蹟を女の真心・黒髪と結びつけ、この黒髪ある限り、終対死めことはいないとの信念に、必ず私を昇華させていった。復員時の私の唯一の所持品は血染めの黒髪であつた。

家内一同涙ながらに、貴方の生還を喜び、早々の御来水等待つていゝ一通の便りが全滅したと噂の噂の水戸から私の住む長崎へ来たのは、終戦後約一年の事で、それが女の直筆でないのに一抹の不安を感じた。高であつたにもかかわらず、何んか拡がっていくのが感じられるよふになつていったが、予感が現実になるのに、さ程日数はかからなかつた。結局女は最早清纯な乙女ではなく、私が命をかけた夢を無残に散らした男の存在を知つたのである。その男は舞廳の先生の兄、而も私の女をなじり、両親を責め、半狂乱の挙句、泥酔の中に我を自失してしまつていた。そして親族会議の席で、女と両親は両手をついて詫言、総てを水に流し、約束を果たす事となり私もそれを望んだ。一件落着の夜遅く、音もなく部屋門に忍びこんで来た女は、不審の曰ながら私の前で、身をよじらせながら暫くむせび泣いていたが、やがて涙の乾いた蒼白な顔をあげて、「どうしても貴方と結婚出来ませんお許し下さい」深々と頭を下げると静かに立上り、部屋を出ていった。果然と立ちすくんでいた私は反射的に後を追おうとしたとたん背後の佛壇から黒髪の叫び声が朗々とこえてきた。

「おやめなさい、中尉殿／＼で女を追うのは、それは貴方の一生の破綻に繋がるのですよ。そのまま動かないで／＼そして未練は今こゝ

ですぐにお断ちなさい。これから貴方がどのような人と結婚しようとも、この女と結婚する程不起くなる事は無いでしょう。思い起せば、中尉殿との殺りくの戦闘を駆け巡った時、私の使命は御主人様の大切な恋人を死から守る事でした。そして、それは我ながらうまうまいったと思っています。今は、中尉殿が胸から熱い血潮を啜き出され、私がおの血にまみれた頃の事でした。私は御主人様の身切りを存じて居りました。その上心の隅ではむしろ貴方の生還を望んでない事です。察してしまえば併し、それなりに私は何も知らずあなたと共に、いかに恋人の真心を信じていた貴方が憐れで、いとおしくてなる事があったのです。そこでごんたんと暮らしたことがあって私の命を殺してなされたものかという私の魔性の力は最悪に發揮されたわけです。時には互に敵を殺し、目の前でたばね倒れる悲壮な部下の死を冷静に見守れる鬼の様な側面と、倒したて守れる米兵のポケットから出てきた類笑み美しい愛妻と、よろよ歩きの可愛い女の子の写真や、羽下の目の届かぬ距離の中で、じと見つめながら、肩をふるわせ、必死に鳴咽をかみこころしている貴方人間性にふれ、私はたまらぬ愛情を感じたものでした。私がつむ貴方の血が人間のようなど心を与えてくれたのですね。マーマン サラマート ポ バアラミン アディヨス。大変有難うございました。さようななら、愛しい中尉さん／＼そして去って行くものは、もう追わないですね」

その後、女と黒髪の方方は、私は知らない。あれから既に四十年、黒髪の予言のように、私はせぬ人生を送ってきた。病氣、交通事故等形を変えた戦いの中に、何度も死線を越えながら。平成元年一月二十七日、十時間に及ぶ手術を乗り切り私はまた一つの死線を越えた。あの愛しい黒髪はいまだにどこかで私を憶い、じと守りつけてくれているのだろうか。

完

過去を振り返り、この先を思う

加藤 晋 輔

一、まえがき
この稿を書いているのは、八十二才の誕生日の頃であるから過去を振り返るといえば、八十二年で長い。この先を思うとなれば数年足らずで非常に心細いのであるが「信友」三周年を記念して筆を取った次第です。
二、年表の作成
八十二年の過去が一目でわかる

西暦	年号	時代	事項
一九二一	明治四四	誕生	三月三十一日。生まれる
一九二二	大正元		七月三十一日。明治天皇崩御
一九二七	六		七月三十一日。大正天皇即位
一九三三	十二	学生時代	小学校入学
一九三六	十五		中学校入学。九月一日関東大震災
一九三八	昭和元		大正天皇崩御
一九四一	十六		昭和天皇即位
一九四二	十七		中学校卒業。第二高等学校入学
一九四三	十八		第二高等学校卒業。東北大学工学部電気科入学
一九四四	十九	旧軍時代	三月。東北大学工学部電気科卒業
一九四五	二十		五月一日。陸軍通信学校軍属
一九四九	二四		七月二十九日。陸軍技術師
一九五二	二七		十月二十五日。陸軍技術少佐
一九五三	二八	警察時代	十一月一日。復員
一九五五	三〇		十月。岩手県通信出張所
一九五九	三三	自衛隊時代	四月。熊本県通信出張所
一九六三	三八		三月二日。辞職
一九六四	三九		保安隊久里浜駐屯地入隊
一九六五	四〇		四月。陸上自衛隊通信学校無線科長
一九六六	四一		二月。通信学校研究部長
一九六八	四三		八月。北方方面総監部通信課長
一九七〇	四五		三月。通信監査隊長
一九七二	四七		八月。東北方面総監部付
一九七三	四八		三月三十一日。定年退職
一九七五	五〇	東北工大時代	四月。東北工業大学助教授
一九七八	五三		八月。東北工業大学教授
一九八〇	五五		三月。教授を免ぜられる
一九八二	五七		四月。客員教授
一九八三	五八		三月。客員教授を解職される
一九八五	六〇		四月。名誉教授

ている。そのうえ、現在柴田町には、施設団が駐屯している。通信関係者が居らず、隊との接触は円滑ではない。
五、この先を思う
私は、一貫して電気通信の道を進んできた。従ってこの先何をするのか迷うことはない。特にアンテナについては、旧軍以来の経験が豊富である。自衛隊時代は、無線通信が主な仕事であり、東北工業大学時代の研究テーマは「アンテナ」であった。従ってアンテナの研究は、二十数年続いているが、未だ後世に残るような仕事はしていない。
今、考えているアンテナ研究は二つある。一つは、アマチュア無線に用いる「J E 7 G V O アンテナ」である。もう一つは、工大の最終講義で「アンテナの量子力学の考察」を行った。これは今でも間違っているとは思っていない。深く掘り下げて研究したいと考えている。

無題

猪俣 三郎

最近、腹が立つのは、ロシアの相も変わらぬ「ザイフトラ外交」だ。エリツィン大統領が訪日を匂わす度に、わが国は与党の幹事長が、或いは外相や外務省の役人が、ソレとばかりでは北方領土返還交渉かと、その都度モスクワ参りをしている。その度にキャンセルされている体たらくである。
ところが、七月のサミットには「日本は対ロ支援と北方問題は切り離す」といった途端、ズーゾーしくも直ちに来日したかと思うと、多額の対ロ支援だけを受け取る。サッパリと帰ってしまっ。われわれかつてシベリアに強制労働させられた経験を持つ者にとっては、彼等はお得意の「ザイフトラ(明日)外交」をやっているのと同じ映らないのである。シベリア抑留で、私達捕虜が色々と改善を要求して、収容所長の所に行くと決まると「ザイフトラ」とやられる。即答を避けるのである。私達はその言葉を信じて翌日ゆくと「ザイフトラ」である。その翌日も、またその翌日もである。希望を持たずのようになり引き伸ばすのが彼等の常套手段なのである。要求する側の方が痺れを切らしてしまふのが落ちとなる。ロシアのやり方は正しくこの「ザイフトラ外交」と映っても止むをえないではないか。

勤務雑感

西村 一陽

ねないと報道していたが、その後餓死者が出たと言ったことは聞こえてこないのみか、春ともなれば肉を食うのが困難な状況に陥っている。店に商品は無くとも家庭の冷蔵庫には、三、四ヶ月分の食糧が隠蔵確保されていたのである。このことはソ連時代から、ヤミ経済が表の国家経済に重要な役割を果たしていることを見逃して、この国の経済を論じ得ないことを示唆しているものである。この事実を、ここ当分変わらないものと思う。
従って、わが政府は、人道的支援だの市場経済移行のための支援だのと称して、莫大な国民の血税を対ロ支援として支払うとして、この面での監視が欠かせないことは勿論、援助を得ようとする当のロシアが諸外国に、盛んに武器輸出を行っているのみならず、C I S 周辺諸国の紛争解決には武力行使をも辞さないと言言して憚らないことを重視すべきではないか。
眼を転じれば、アフリカ大陸では今、数万人にも及ぶ人々が飢えに苦しんでいると言言ではないか。何故か、いまロシア支援なのか、今こそ政府当局は、ロシア支援の必要性を国民が納得できるように説明すべきである、と思うのは私のみであろうか。一九九三、八
あり」を建学の理念とし、開学以来「最新の教育施設と教育教材の整備」を最優先課題とし、絶えず最新の教育機器、実験実習機材が必要にして十分な量だけ導入されてきた。
教育体制の面でも、個人指導が重視され、先生が理解できない学生を一人一人呼んで納得するまで教え、あるいは放課後に、マンツーマンの補習実習をしているといった場面を屡々に見ている。
反面成績不十分な学生は、そのまゝでは社会に出さないといった厳しい面もあります。自衛隊の服務指導体制も立派ですが、当学院地方に出張して行う父母面談等家庭との密接な連携、学生の適性を考慮しつつ全員の就職が決定するまで学校が責任をもって面倒をみるという、入学から就職まで一貫した指導が実行されており、「あの学校の卒業生を貰えば間違いない」という評価も定着しているようです。
「最新の実験実習教材、快適な教育環境、熱意ある先生、個人指導を重視」といった、私の口から言うのもヘンですが、まことに良心的で、銭を取る教育とはいえず「教育の原点はここにある」を日々実感し、トップの経営センス、教育業とはいえず、職員の高いモラル等には学ぶものが大であります。
乏しい予算のなかで、やりくりと創意工夫で対応しなければならなかった自衛隊の教育が、ここ最近の当学院の教育内容、教材導入等の傾向の一端を紹介すると、世はまさに高度情報化社会ということで、自衛隊のカナレ系もコンピュータ化されたことですが、当学院も情報学科はもともと論議の分野の学校の基礎教育にコンピュータが導入されつつあり、購入教材もコンピュータ関連機器が主となり、また最近では、ソフトウェアの比率が相当の部分を増えているに至っています。
自衛隊の装備体系も同様と思いますが、当学院の教育設備の実体も年々にデジタル化、オートマチック化、ダウンサイジング化等高度化の傾向を強めてつづいてます。
また、急速な技術革新による教材の短命化、アイテムの多様化、国際化の進展による海外製品の高価の増大等が指摘できます。
急速な技術革新、情報化の進展、学生ニーズ、レベルの多様化、分科化は教育サイドとしても、限られた時間の中で何を如何に教えるか、どのような機器を導入するか重点の絞り易さに難しい問題があるように思っています。
最後に、技術革新の進展するなか、ますます厳しさを増す予算のもと、自衛隊も民間の学校と同じだけの豊富な教育施設を整えることは困難と考えられ、片や人材の養成、確保も益々重要になると予想される今日、技術教育は部外力をもっと活用する方法、制度等を検討することも重要なことではないかと考えながら勤務しています。

――余生を楽しむために

政宗は、当時の仮名さえ怪しげな
武將達のなかで、鶏群の一鶴ともい
うべき卓抜な漢字の素養をもつて
いた。司馬遼太郎氏は、「この詩は
平仄も韻もじつに正確である。これ

しく半途で挫折してしまつたのである。秀吉も家康もこの勇猛で打算的な野心家と面倒をおこすことを避けるため奥州に封じこめ諸領も六十二万石ほどに留めている。

— 満州の思出

創意であって楽しもうと工夫することによって得られるもので漫然と求めて得られるものではないと信じていたようである。

ご承知のとおり、日露講和条約の結果、関東軍が、遼東半島南端の関東州租借地、長春以南千二百軒に及ぶ鉄道と沿線付属地の警備

多く、関口鑣造、菅野六郎、新井英男、根岸八州男の諸先輩が居られる。二年生の四学期に二・二六事件発生、当時の情勢から快挙と見る人も多かった。間もなく東京

杉山、華岡吉男候補生達と縁ができ、今だに何かとお世話になっている。終戦時の幹候隊中隊長、長神和夫少佐は、ともに抗戦を企図した外柔内剛の方であった

友だち」

(イ) 考えて読んだり書いたり常日
頃節目の生活、早寝早起

(ロ) 趣味を持て、碁やゴルフ等

(文責 広報幹事)

土井晩翠先生との出会い

「消滅した部隊歌の顚末」

岡 偉 之 輔

信友会の皆さんお元氣でお過ごしでしょうか。それにしても近頃旧友学友友達の突然の訃報に驚かされたり、自衛隊時代の親友達の体調不良や入院加療中等の話を多く聞かされながら早期回復を祈念しつつ明日は我が身もかと案じている昨今です。

さて今回信友会創立三十周年に当たって特別号の発行を企画されているとの報に接し、私もアルツにない中にも何か駄文を書いてせめて記念号の末尾の方へでも載せて貰えたらと念じて、私の青年将校時代のエピソードを書いてみました。この話は私の在任中も退任後も誰にも語らなかつたいわば戦中秘話ともいう実話です。

「春高樓の花の宴」

「めぐる余影を」

我々日本人の心に沁み入る不朽の名曲「荒城の月」作詩は言わずもがな彼の高名な土井晩翠先生である。

その土井先生に奇しくもたつた一度お会いしたのは今を去ること約五十年前昭和十七年暮に近頃であった。当時私は若冠二十五才中支派遣第二十二師団通信隊勤務の陸軍中尉で浙江省杭州に駐屯していた。たまたま我が部隊の留守担当師団が宇都宮師団から仙台師団に変わった頃で、毎年の補充新兵は宮城、新潟、福島等東北原徴集の若者が入隊して来た。私は部隊から命に依って昭和十七年徴集の新兵受領と仙台、杭州間の輸送指揮官を担当することになり昭和十七年暮仙台に着し、新入兵の入隊を待っていた。私は杭州から出発する前には部隊長から新兵受領とは何の関係もない別の命令を受けていた。その命令とは仙台に行ったら土井晩翠先生を訪ねて「部隊歌」の作詩を依頼して来いというものであった。これはえらい

たので再度手紙でお願いしたところ、やっと朱印で「規」を「紀」と書き改めた原稿を返送して呉れて、我が部隊歌は晴れて「土井晩翠先生作詩」として誕生した。この時の先生の手紙、先生直筆の作詩原稿等は私にとって貴重な記念品だと思つて、昭和十八年秋私が日本に帰還する時大切に持ち帰って保管していたが、翌年フィリピン出征、そして敗戦、復員後のドサクサに紛れて貴重な先生の原稿、手紙等総て紛失してしまつた。実に惜しいことをしたと今でも悔んでいる。さてその貴重な部隊歌の運命であるが、我が部隊は私の帰還後支那から仏印(現ベトナム)へ転戦し、打ち続く敗戦の中で逐々作曲までに至らなかつたという。かくして土井晩翠先生晩年の作「第二十二師団通信隊歌」は永遠に陽の目を見ることなく、日本帝国の崩壊という暗の中にひっそりと消滅してしまつたのである。恐らく当時の土井先生の年令を越えたと思われる私は激動の世代を生き抜いて白髪を振り乱し乍らしぶとく生き続けている。

前立腺肥大症の手術を受けて

伊藤 文 夫

一、はじめに

「前立腺肥大症です、完全に治すには、手術する以外に方法はありませぬ」と医者に宣告され、手術台に横たわつたのは昨年(平成四年)の夏のことでした。

前立腺の肥大は男性の宿命で、老年になると、ほとんどの人が肥大しそのうち、三人に一人が四人に一人の割合で肥大症になるそうですので、前立腺肥大症の概要と私が受けた手術の経過について報告し、御参考に供したいと思ひます。

二、前立腺肥大症とは

前立腺は、男性生殖器の後部尿道を囲み、膀胱下に密着している器官で、前立腺液を分泌して精液を導く働きをしています。

この前立腺に良性腫瘍が発生すると、内線組織が増殖し、正常値でクルミ大の前立腺が鶏卵大ないそれ以上に肥大して、排尿障害、残尿、頻尿等の症状が現れ、これを前立腺肥大症と言ひ、五十才以上に見られる一種の老化現象で、性ホルモンのバランスの崩れが原因と言われている。

前立腺肥大症は悪性腫瘍(ガン)も悔んでいる。さてその貴重な部隊歌の運命であるが、我が部隊は私の帰還後支那から仏印(現ベトナム)へ転戦し、打ち続く敗戦の中で逐々作曲までに至らなかつたという。かくして土井晩翠先生晩年の作「第二十二師団通信隊歌」は永遠に陽の目を見ることなく、日本帝国の崩壊という暗の中にひっそりと消滅してしまつたのである。恐らく当時の土井先生の年令を越えたと思われる私は激動の世代を生き抜いて白髪を振り乱し乍らしぶとく生き続けている。

症状がありましたので、「前立腺肥大症」と自己診断をしていたのですが、場所が泌尿器だけに、病院へ行くのをためらっていました。ところが、昨年の夏休みのある日、尿がほとんど出なくなりついに病院へ行く決心をした次第です。病院(泌尿器科)ではまず直腸に指を挿入する触診に始まり、超音波エコー像の撮影、尿道造影剤を注入してレントゲン撮影と続き最後に残尿量が計測されました。その結果「前立腺肥大症」と診断され、翌週の火曜日に入院し、翌水曜日に手術を受けることになりました。

五、手術の経過

入院の当日に、腰部及び胸部のレントゲン撮影と心電図の計測が行われ、翌日、手術は下半身麻酔の状態で行われました。

本手術に先立ち、雑菌が糞丸へ侵入するのを防ぐために、精管カッター手術が実施されました。

本手術は、内視鏡と鉗子で尿道を経由して前立腺の内部へ挿入し、腫瘍を切除して外部へ摘出す作業が約四十五分間続けられました。手術台に横たわること約一時間で手術は無事終了し、手術後は尿道から膀胱までカテーテルが挿入され、これは手術後六日まで残置されました。

この残置カテーテルは内部が三つの管から構成されており、一番目の管には膀胱側の先端にゴム風船がつけられてあり、これを膀胱内で張ませ、カテーテルが脱落するのを防ぎます。

二番目の管には、薬液バッグからの細管が連結され、点滴の要領で膀胱内に薬液を注入するのに使用されます。三番目の管には排尿バッグからの細管が連結され、膀胱内の薬液や尿を排出するのに使用されます。

手術直後から十数時間、約十六リットルの薬液が膀胱内に注入され、排尿バッグは手術直後から三日間連続されたままでした。排尿バッグが外された後は、残

置カテーテルの排尿部の先端を栓で塞ぎ、この栓を外すことにより排尿を実施しました。

手術後六日目に残置カテーテルが外され、ようやく自力で排尿ができるようになりました。手術直後から数日間、真赤だった尿の色もだんだん黄色になり、手術後九日目(入院は十日間)に退院することができました。

退院後は、前立腺の薬と抗菌剤を毎日三回服用し、尿内の血液量の検査のために二週間に一回通院の検査後二ヶ月で完全に治りました。

六、手術後の所見

「青春」とは年令ではなく精神の持ちようだと誰かが言っていたよ

去るものは日に疎し

武藤 和 敏

昭和十八年頃だったか、初めて軍用交換機は六回線から八回線の単組式のものでした。軍と師団の間を裸線一条で結び、電話と電報を共用回線としていたと思う。そして体験的に交換台に座つてみて、バタバタと来信のたびにおちるパネル盤にマゴマゴしたことを思い出します。それから約十年、自衛隊に入り、島松駐屯地の初代通信所長として、苗穂から島松における野外交換機(約四十回線)を使つた臨時の通信所から固定の百回線共電式交換機を設置した時は、すごいものだと思ひました。

それですぐ必要に応じ切れなくなり、通信量の増大には驚きました。それから四十年、交換機は自動化され、一般的にステップバイスなツップ方式からクロスバ方式になった頃は画面の進捗で交換機のイメージを一新したと思ひました。それでも信号に応じカタカタと音がして安心感がありましたが、電子交換機になりますと単なる図と化し作動音もなく、容量も大とならぬようにと願つておりました。

然しながら「時はすべてを美化する」という言葉もありました。我々老兵も時々は旧き懐かしい集いに顔を出し、思い出を美化するのにもたまに許していただければいいのではないですか。その意味でも信友会の価値は大きいものと思ひます。そして邪魔にならないようにしながら、おおきに顔を出し、疎くならぬようにと願つておりました。

信友会三〇年

創立

昭和三〇年代後期、ボツボツ増えてきた通信科職種幹部の退官者達が出身母体などを中心に集まり、旧調達班OB会、土曜会、シグナル会、RSCC (Retired Signal Corps Club) 等、いろいろな会をつくり、定期・不定期に会合していたようです。そのうち皆で集まろうという機運となり、昭和39年11月5日通信OB会として田町の札の辻会館で発会式が行われました。参加者六十六名。この会で桜義雄さんが会長に就きました。信友会はこの日を創立の日としています。

会員

当初は退職通信幹部全員を対象とし、会則制定後、会費を納入し登録された者を正規会員、その他を未加入者(準会員)としていました。準会員は現況把握が困難であり、65年から正会員のみの名簿にのせることになりました。現在名簿は三年毎に発行しており、その間の変動は機関紙でお知らせするようにしております。人事担当幹事がパソコン管理しており、正確を期するよう努力しております。

経過

その後は、退官者の増加と共に会員数も増え、順調に進展してきております。会長は桜さんについて、安崎操さん、平岡興一郎さん、山本筑郎さん、45年から選挙となり再度平岡さん、53年大河原三平さん、平成元年田中邦明さん

副会長「暗視装置」論

副会長 牛山正吾



信友会の副会長を拝名してあります牛山です。副会長というのは会長の目の届かない所を見て、補佐していくのが使命かと存じています。会長が肉眼で見て捕えられないものを、副会長は視野は狭いが暗視装置で捕捉していくのが任務といたってよいかと思ひます。そこでこの文では暗視装置のことを少々述べてみたいと考えます。

ご承知のように暗視装置は夜間物体を観測するもので、大きく分けて微光暗視装置と赤外線を主として使用する暗視装置とがあります。微光暗視装置は星明りや月明りを利用して、物体の明暗のコントラストを強めることで観測のコンパクトですが暗闇や煙霧の中では見え

総会及び懇親会

会則により毎年一回総会を、またその際懇親会を併せて行っており、十三周年からは、現役と共催で新退官者(新会員)の歓迎会を兼ねて実施するようになり、毎年二月の最終土曜日を基準としてきていましたが、参加者増大で会場設定が困難となり、基準どおりにはできなくなってきたので、総務担当幹事が苦労しています。毎回四五百名の参加者です。

機関紙

54年から機関紙「信友」を発行するようになりました。55年休刊しましたが、その後毎年発行しております。通常タブロイド版のさやかなものですが、全国会員と結ぶ唯一の手段ですので、会員の寄稿による編集を主眼として広報担当幹事が編集作業をしております。

その他の活動

前述の懇親会・名簿・機関紙が恒常活動の三本柱ですが、その他各種の活動を実施してきております。地方懇親会・地方居住の会員は中央の懇親会に出席困難ですので、

ないという欠点もあります。その点赤外暗視装置は、赤外線を投射する物体自身が放射する赤外線を利用するからです。全くの闇の中でも利用可能です。ここでは最近の暗視装置動向を述べましょう。物体が放射する赤外線を検知するには、数種の元素を複合した材料で受光していますが、いずれの場合も受光センサーを非常に低温に冷却する必要があります。そのためには冷却器の付加、冷却用液化ガスの補充といった面倒なことも発生します。冷却を省けば、装置の立上り時間が極めて短く済みます。また冷却機構がないので小型・軽量化可能で小銃の照準用や、警備用センサーとしてマイクロ回線の夜間構

会費および通信費

会費は当初終身会費五〇〇〇円で経過し、諸物価高騰により62年一〇、〇〇〇円と変更しましたが、それでも会の運営は容易でなく、退官者数の落ち着く今後は自転車操業もできず、会の健全運営のためやむなく平成4年から通信費を二年ごと二〇〇〇円頂くことになりました。

事務局役員

信友会発足当時は事務局の組織はなく、矢口弘幸さん一人が世話役をしており、陸軍通信課の支援を得つつ会を運営してきてました。その後見俊一さん、江守公明さん、森輝雄さんが参画して活躍され、会の基礎を確立しました。次いで下川重夫さん、野口裕さん、森岡英明さん、杉浦裕孝さん、依田文彌が幹事となり、事務局が組織化されました。現在は世代交替準備もあり、別表(事務局だよりに掲載)のように充実した組織となっております。

事務局長の矢口さんには、この全期間を通じて活躍され、加えて自分の会社を事務局として提供されており、信友会最大の功労者の一人であります。

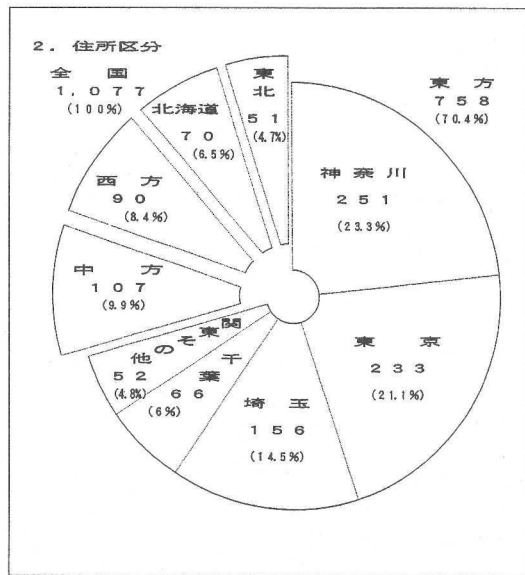
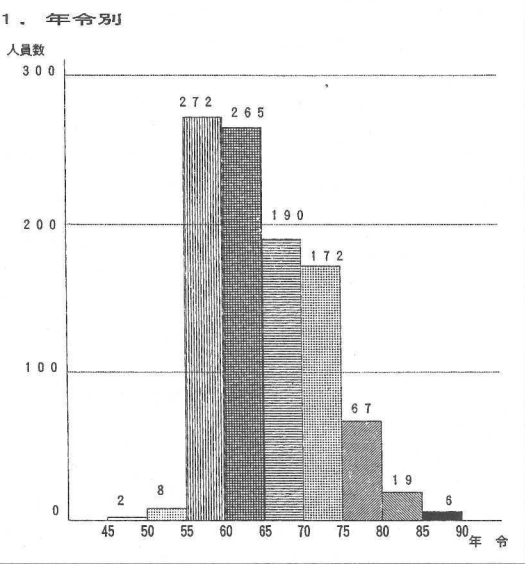
新入会員紹介 (5.4.1~5.10.31)

山田進修	(通)	柴山進修	(通)	川田長四郎	(市ヶ谷業)	工藤修司	(西通群)	石橋修司	(通)	大野敏秋	(通)	中野邦彦	(通)	中村嘉造	(通)	五十嵐作次	(東通群)	松田正幹	(通)	仁科光雄	(6通)	小前辰雄	(12通)	前田忠興	(通)	水口二平	(通)	小林祐治	(通)	塩山祐治	(通)	厚地久稔	(調設)	清水久稔	(調設)
------	-----	------	-----	-------	--------	------	-------	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	-------	-------	------	-----	------	------	------	-------	------	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	------	------	------

終りに

この三〇年間信友会は以上のように入会してきております。自衛隊の多数のOB会の中で他職種の羨む傑出した会となってきたことになりました。(依田文彌 記)

会員の構成の状況



雑感

大河原 三平



私達に身近な電子情報通信学会は、通信学会から通信電子学会となり、次いで今の名称になった。これはエレキを中心としたハード、ソフトの進歩が世の改革を促進し、且つ高度な近代社会を支えていることを示している。私は長い間高度化社会の主役ともいえる通信に職を奉じ、立派な同志と共に充実した日々を送らせて頂き、今尚志を同じうする人々の活躍に親近感をもって拍手を送りながら、心から感謝している。さて世の中の変化も、それに伴う通信の発展も益々増大する。そこで若い人達の御健康を祈りつつ老後の考えをちょっと聞いて頂くことにする。

その一つは、最近のサッカーチームで孫たちと一緒に時々TVを見るが、特に感心させられるのは、秀れた個々の技を瞬間瞬間の判断で見事に目標に集中して行く、ダイナミックな十一名の一体感である。これはまさに新時代のマネージメントの在り様を示唆するものと思う。今やジャイアンツ狂もちょっと冷めた。

もう一つは、流れが激しいと飛沫や渦に眩惑されて本流を見失うことがあるように、世の大変革にさいしては上りのムードが先行して本質が等閑になることがある。かつてレディーフォースのキャッチフレーズの下、正面整備に力点が置かれ、写真中隊が財源として狙われたことがある。理由は写真機が発達したので誰でも撮れるから、と。

さて、その頃画像、ビデオの芽が出始めて、写真が通信の所掌であることの実感が出て来たところであったので、我々の写真は単なる絵ではなく、組織のニーズに答えられるものでなくてはならない。それには教育訓練の「核」を持って常に修練を重ねて行く必要がある、と臆止に強く反対した。幸い東京オリンピックでの写真中隊の諸君の大活躍で名声を博し、お取り潰しは沙汰止みになり今日に至っている。

とにかく三十年の間には様々な変化があったが、全く変わらないうちにある。それは信友会員の固い団結と温かい友情である。何時迄も大切にしていきたい。現在の役員は次のとおりです。

氏名	御逝去年月日	〒	御住所
阿部 正勝	H4. 8	062	札幌市豊平区平岸3条17-4-4 (011-821-5349)
有岡 正一	H4. 12. 12	239	横須賀市二葉1-42-24 (0468-41-2057)
立石 隆章	H4. 12. 31	157	東京都世田谷区南鳥山3-11-20-408 (03-3326-3158)
増井 清	H4. 12	501-32	岐阜県関市山田211-265 (0575-28-2782)
豊田 亀吉	H5. 3. 16	251	藤沢市藤沢2494 (0466-81-3885)
松永 力	H5. 5	191	日野市多摩平6-6-6 (0425-81-6733)
森田 英郎	H5. 7. 11	490-12	愛知県海部郡美和町大字木田字木田東1-3 (052-444-9636)
竹生 元彦	H5. 7. 23	215	川崎市麻生区上麻生2-33-13 (044-955-1047)
堤田 明	H5. 9. 8	244	横浜市栄区飯島町1773-19 (045-891-3133)
加藤 幸雄	H5. 9. 28	236	横浜市金沢区六浦町1397 (045-784-2326)

事務局だより

一、通信等事務費負担(払込み)のお願い

信友の皆様には会費育成のため、常日頃から御高配を賜り誠に有難く感謝申し上げます。

お陰様にて、信友会諸行事も順調に進捗しております。さてすでに平成三年総会で皆様の御賛同を頂き、翌四年から会運営の為、皆様に「通信等事務費」の御負担をお願いしておりますが、平成六年は、その払込み年に当たりますので、信友会の発展、維持運営の為皆様の更なる御協力を賜りますようお願い申し上げます。

「通信等事務費」の納入は同封の郵便振替用紙(郵送料加入者負担)を使用し、御面倒でも御送金方をお願いいたします。なお、未納分につきましては宜しくお願ひいたします。

二、信友会三十周年行事等準備状況の報告

第二十九回総会時、会員の皆様御承認頂いた三十周年記念行事としての「信友特別号」の発行、「名簿」の発行(無料配布予定)、信友会に対し従来から側面的に支援して頂いた通信電子関係企業の招待等について、会員皆様の御支援を得ながら会長以下幹事一同、一生懸命で着々準備を進めて参りました。

お陰様で別途御案内通り平成六年一月十九日に、三十周年の総会・懇親会が開催出来る運びに至りました。信友特別号発行の為の原稿等皆様には多大の御協力を賜っておりますこと、幹事一同紙上を借りて御礼申し上げます。

三、PKO通信隊員に対する激励等について、その後の御報告

皆様にPKO派遣通信隊員激励の為の浄財支援をお願いいたした、信友会として、カンボディア・モザンビークに派遣された通信隊員支援を実施して参りましたが、カンボディア派遣PKOについては第一次隊員(中部方面隊主力)が

ムで孫たちと一緒に時々TVを見るが、特に感心させられるのは、秀れた個々の技を瞬間瞬間の判断で見事に目標に集中して行く、ダイナミックな十一名の一体感である。これはまさに新時代のマネージメントの在り様を示唆するものと思う。今やジャイアンツ狂もちょっと冷めた。

さて、その頃画像、ビデオの芽が出始めて、写真が通信の所掌であることの実感が出て来たところであったので、我々の写真は単なる絵ではなく、組織のニーズに答えられるものでなくてはならない。それには教育訓練の「核」を持って常に修練を重ねて行く必要がある、と臆止に強く反対した。幸い東京オリンピックでの写真中隊の諸君の大活躍で名声を博し、お取り潰しは沙汰止みになり今日に至っている。

とにかく三十年の間には様々な変化があったが、全く変わらないうちにある。それは信友会員の固い団結と温かい友情である。何時迄も大切にしていきたい。現在の役員は次のとおりです。

氏名	御逝去年月日	〒	御住所
阿部 正勝	H4. 8	062	札幌市豊平区平岸3条17-4-4 (011-821-5349)
有岡 正一	H4. 12. 12	239	横須賀市二葉1-42-24 (0468-41-2057)
立石 隆章	H4. 12. 31	157	東京都世田谷区南鳥山3-11-20-408 (03-3326-3158)
増井 清	H4. 12	501-32	岐阜県関市山田211-265 (0575-28-2782)
豊田 亀吉	H5. 3. 16	251	藤沢市藤沢2494 (0466-81-3885)
松永 力	H5. 5	191	日野市多摩平6-6-6 (0425-81-6733)
森田 英郎	H5. 7. 11	490-12	愛知県海部郡美和町大字木田字木田東1-3 (052-444-9636)
竹生 元彦	H5. 7. 23	215	川崎市麻生区上麻生2-33-13 (044-955-1047)
堤田 明	H5. 9. 8	244	横浜市栄区飯島町1773-19 (045-891-3133)
加藤 幸雄	H5. 9. 28	236	横浜市金沢区六浦町1397 (045-784-2326)

三、PKO通信隊員に対する激励等について、その後の御報告

皆様にPKO派遣通信隊員激励の為の浄財支援をお願いいたした、信友会として、カンボディア・モザンビークに派遣された通信隊員支援を実施して参りましたが、カンボディア派遣PKOについては第一次隊員(中部方面隊主力)が

第二十九回総会にて御承認いただいた会長・役員に任期に関する会則七条の一部改正について本来ならば紙上で皆様にお知らせすべきですが、今回は名簿を発行する年であり、会則は名簿頭記に掲載

四、会則の変更についてお知らせ

第二十九回総会にて御承認いただいた会長・役員に任期に関する会則七条の一部改正について本来ならば紙上で皆様にお知らせすべきですが、今回は名簿を発行する年であり、会則は名簿頭記に掲載

平成5年度信友会会計報告

(H5. 1. 1~H5. 12. 31)(単位: 円)

収入	支出
前年度繰越 3,180,184	慶弔費 115,485
終身会費 420,000	通信事務費 209,973
名簿代 36,000	印刷費 241,609
通信事務費 49,000	謝礼 20,000
利子 62,262	地方交付 200,000
寄付等 10,000	次年度繰越 2,970,379
計 3,757,446	計 3,757,446

以上のとおり報告します。

平成5年12月31日
会計幹事 林 巖 印
" 熊谷 猛 印

監査の結果相違ありません。

平成5年12月31日
幹事 青沼 幹夫 印
" 山田 修 印

五、地方懇親会盛況に終了

地方居住者の皆様方との親睦を目的とした地方懇親会として、三月五日、東方通信群十周年記念日に併せて東方地区を、また六月十三日、中央通信群三十周年(PKO派遣通信隊員帰国歓迎会を含む)に併せて中央地区を開催させて頂きました。

(名簿) 福井 繁・嶋崎五月次
庄司裕蔵・河内正臣
(機関紙) 高橋清・岸野宏四郎
熊谷能春・中山法也
(会計) 林 巖・熊谷 猛
(監事) 青沼幹夫・山田 修
(相談役) 松浦昇・依田文彌
山田敏雄・岡村勇助

編集後記

・多くの会員と現役のご協力により本号はできました。一會員だよりを特集しています。ご存じの先輩・同僚・後輩の短信を懐かしんで下さい。會員記事は殆どが自主寄稿によるものです。積極的な投稿を感謝します。

・本号は記念号なので、当初は雑誌形式にしようかと検討されましたが、諸般の事情で平年と同じタイプに決定いたしました。

・機関紙充実のため、今後とも皆様のご支援をお願いいたします。(依田文彌)

・通勤時や町を歩いていると、小さい子供達をよく見かけますが、危険な事をしたり、いたづらをして見ても見ぬ振りをする人が多いです。私達の小さい頃は、自分より近所のおじさんやおばさんにおかれ逃げ廻った記憶があります。もっと私達は小供に関心をもち、注意すべき時はどしどし注意する事が必要だと思います。

・最近の世相を観るに、一連の事件に共通の流れを感じる。政治家の不祥事が起ると「絶対にそのような事実はありません」といって「秘書が、妻が」である。経済一流の答がゼネコン汚職も同じパターンです。権前報道局長の国会証言も云ったことが報道の現場に反映されていないこと。これら大人の論議を子供はどう理解しているのでしょうか。

・終戦五十年を振り返って、今大事なこととは道徳的価値を高揚することだと思っています。

・昨年四月大井町市話サークル「手と手の会」を結成。手話通訳や手話ダンスのボランティア活動により障害者と繋がること夢の一つ。

・先日耶馬溪へ出かけ青ノ洞門を見た。三十年の星霜の間に刻まれた極限状態の入魂の跡に、禅海和尚の心と視線を感じ物思いに耽ける一時であった。(中山法也)